

俳句

大津俳句会

穂孕^{ほばら}みの稲に重たくなりし風

井芹眞一郎

秋の蚊のよろよろときてぶつかりぬ

秋山 恵

長き夜を使ひ果たして読む一書

大塚喜久子

台風はいよいよ近づく空に星

佐賀 久子

海底に数多の墓標終戦日

松尾 昭雅

足早に秋の深まる昨日今日

岡崎 浩子

あしたには母となる娘や小望月

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

手風琴鳴らして白い秋が来る

田上 公代

この星の戦禍コロナ禍いわし雲

木庭 杏子

群れとんぼ郵便配達小走りに

上杉 波

あさがおの青を零れる反戦歌

矢嶋 道子

ダリヤ咲く我が心にはモノクロに

水野 春子

蜻蛉来る右往左往の風こえて

梅木トキエ

コスモスやいつも笑顔の友だった

塚本 洋子

鬼灯の老いきれぬ赤もてあます

榮田しのぶ

石榴割れ世間の悪がぼろぼろと

志賀 孝子

短歌

大津短歌会

咲き始めていたく紅深^{くれない}むれどその名も悲
し木瓜^{ぼけ}とゆう花

吉永 恵子

ホトトギス啼き止みしその一瞬を鶯啼け
り空気ゆらして

坂本 杲子

芝刈れば赤とんぼのあまた翔ぶ義妹の魂^{たまし}
帰りきしやも

鞍 岳志

嫁のママ世の遭遇に堪えきれず 弥陀の
許へと逝かれましけり

管野 静

庭隅に楚々と咲きにし鹿の子百合残る蕾
に心ときめく

豊岡ミツル

千曲川旅情想わす佐久長聖高せめて爽風
立たせよ甲子園

小平 善行